



rTMS療法保険収載から2年経過して



rTMS療法が2019年6月に保険収載されて、約2年間が経過しました。保険収載された当初から本治療を実施できる院内体制を構築し、主に入院環境下で実施して参りました。2021年10月までに計36名の治療導入を行いました。

開始当初は、患者さん自身もしくはご家族からの依頼でご紹介されることが大半でした。最近では、かかりつけ医療機関の先生からのご提案で、rTMS療法を検討されることが増えてきました。本治療の認知度が向上してきたことを嬉しく思いつつ、ニーズにお応えできるよう、これからも努めて参ります。

本治療によって治療抵抗性うつ病の患者さんが回復していくのを見ていると、うつ病治療における本治療の意義を実感しております。その一方で、rTMS療法が導入できなかった方や、十分な抗うつ効果が見られなかった方もいらっしゃいました。本治療を依頼されている方は、既に治療に難渋していらっしゃる方が大半であり、藁をもつかむような思いで治療を希望されて来られます。そのような方に、より多様な治療選択肢を提供し、包括的な治療を行うことを心がけております。

これまでは主に入院環境下での治療提供を行って参りましたが、今後は外来通院でのrTMS療法も進めて参ります。保険診療で認められているプロトコルは、1回あたり約40分、週5日、3週間から6週間と定めています。うつ病に苦しむ方にとって、連日の外来通院は相当な負担となることが予想されますが、通院をサポートする体制がある方、入院できない事情のある方は、外来通院でのrTMS療法もご検討下さい。

rTMS療法の治療体制を作ることをお考えの医療機関向けに、見学会を適宜実施しております。ご希望される医療関係者の方は、当院までご連絡頂けますと幸いです。

rTMS療法の適応基準は、「既存の抗うつ薬による十分な薬物療法によっても、期待される治療効果が認められない中等症以上の成人(18歳以上)のうつ病」と規定されています。対象となる方がいらっしゃいましたらぜひご相談下さい。

Contents

- rTMS療法保険収載から2年経過して
- 部署リレー(デイ・ケア科、3A病棟)
- コロナ病床について
- 春の健康まつりのご案内

部署リレー

今号より、日頃お世話になっている近隣施設等の方向けにお伝えしたい情報、当センターとどのように関わりを持っていただけているか等を部署目線でお伝えしていきたいと思えます。

デイ・ケア科

通過型のデイケアにリニューアルします。

当センターの精神科デイケアは、今まで明確な利用期限を定めてなかったのですが、利用期間を2年とする通過型のデイケアに変わります。デイケアパスを導入し、きめ細かな面接を行ない、利用される方一人一人の回復過程に必要なサービスを適時に提供していきます。デイケアパスとは、デイケア開始から卒業までを4期に分けて、それぞれの時期の目標を利用される方とスタッフで話し合い、共有するためのツールです。達成目標を具体的にすることで、目的にあったプログラムの選択を支援します。

デイケアパス		年 令			
10歳未満	10歳以上19歳未満	20歳以上29歳未満	30歳以上39歳未満	40歳以上49歳未満	50歳以上
<p>① 日常生活能力、社会生活能力の向上 ② 社会参加の促進、社会生活力の向上 ③ 社会生活力の向上</p>					
<p>① 10歳未満である ② 10歳以上19歳未満である ③ 日常生活能力、社会生活能力の向上 ④ 社会参加の促進、社会生活力の向上 ⑤ 社会生活力の向上</p>	<p>① 20歳以上29歳未満である ② 20歳以上29歳未満である ③ 日常生活能力、社会生活能力の向上 ④ 社会参加の促進、社会生活力の向上 ⑤ 社会生活力の向上</p>	<p>① 30歳以上39歳未満である ② 30歳以上39歳未満である ③ 日常生活能力、社会生活能力の向上 ④ 社会参加の促進、社会生活力の向上 ⑤ 社会生活力の向上</p>	<p>① 40歳以上49歳未満である ② 40歳以上49歳未満である ③ 日常生活能力、社会生活能力の向上 ④ 社会参加の促進、社会生活力の向上 ⑤ 社会生活力の向上</p>	<p>① 50歳以上である ② 50歳以上である ③ 日常生活能力、社会生活能力の向上 ④ 社会参加の促進、社会生活力の向上 ⑤ 社会生活力の向上</p>	<p>① 50歳以上である ② 50歳以上である ③ 日常生活能力、社会生活能力の向上 ④ 社会参加の促進、社会生活力の向上 ⑤ 社会生活力の向上</p>

プログラムを紹介します。心理教育に力を入れています。

県立病院のデイケアとして、個々の特性や希望に広く対応できるような心理教育プログラムを実施します。例えば、認知機能のリハビリに焦点をあて、パソコンソフトの課題に取り組む**NEAR(認知矯正療法)**、毎日を元気に過ごしていくための工夫や計画について、グループで話し合う**WRAP(元気回復行動プラン)**、対人関係に自信を持てるようにコミュニケーションの練習をしていく**SST(生活技能訓練)**、自分の物事の見方や判断に偏りがなかいことができる**メタ認知**があります。また、新しく利用される方がグループに馴染んで、安心して参加を継続してもらえるようなプログラムも用意しています。

他にも、一人暮らしに必要な生活技術を学ぶ**生活クラブ**、就労など社会復帰に必要な体調管理の仕方や社会人としてのマナーなどを学ぶ**社会復帰プラン**、身体を動かしたい方、体力をつけたい方には**スポーツやフィットネス**、パソコン操作を学びたい方や趣味を見つけない方には**パソコンや華道、書道、絵画、手工芸**、落ち着いて個別の活動に取り組みたい方には**個別活動**、などのプログラムがあります。

利用される方が、その人らしい地域での生活をスムーズに実現していくために、地域支援機関との連携をより一層深めていく必要があると考えておりますので、今後ともどうぞよろしくお願ひします。



地域移行支援病棟（3A病棟）

退院後の生活に活かせる退院支援プログラムを目指して

3A病棟は、地域移行支援病棟として位置づけられています。2017年より「長期入院患者の退院支援と新たな長期入院患者を生み出さないこと」を目指し、医師、看護師、作業療法士、臨床心理士、薬剤師、管理栄養士、精神保健福祉士から構成される多職種で退院支援プログラムを立ち上げました。実施の際には横浜市の精神障害者退院サポート事業より地域活動支援センターの支援員も参加し、今年で4年目となります。



退院支援プログラムは、参加者の退院後に送る生活を鑑み、「栄養と食事」「困りごとの相談方法」「薬の種類と飲み方」「計画的な買い物について」の4つテーマについて講義とワークを織り交ぜています。テーマ毎に、全3回、1回60分程度とし、参加者自身でファイリングし、テーマごとおよび全テーマ修了後に修了証を授与して参加者のモチベーション維持と、プログラムの内容を想起し定着しやすいようにしています。実施時には、担当職種をはじめ複数の退院支援プログラムのメンバーが関わり、参加者のレディネスに合わせて理解できるよう適宜声をかけています。2019年から2020年にプログラムに参加した人数は21名（男性14名、女性7名）であり、うち14名が退院しています。疾患の内訳は、17名が統合失調症、4名が気分障害であり、参加者の在院日数の平均は3年以上でした。

単調になりがちな入院生活の中で、退院後の生活に必要とされる各テーマについて意図的に考える時間は参加者にとって貴重な体験であり、次回も参加したいという意見が多く、ニーズの高さを実感しています。今後も参加者の個々のストレングスに着目し、退院後の生活に根差したプログラムを作成し、退院後の生活に活かせるよう多職種間で協働していきたいと思



活に根差したプログラムを作成し、退院後の生活に活かせるよう多職種間で協働していきたいと思

コロナ病床について

当センターは神奈川県精神科コロナ重点医療機関として、COVID-19陽性であり、精神疾患を持つ患者さんを受け入れています。当初は結核ユニットの2床のみの運用でしたが、患者数の増加に伴い病床数は段階的に6床から11床まで拡大しました。病床確保に際しては、当センターの入院患者さんを近隣の精神科病院で受け入れていただくなど、精神疾患を有する方が感染したときに、安心して入院できる環境を整えることができました。

また、治療についても当初は酸素療法しかできず、重症化する患者さんが増える中、悪化して県の臨時医療施設（湘南鎌倉総合病院）に転院をしなければならないこともありました。そのような状況の中で、はじめにステロイド剤が導入され、その後、抗ウィルス薬（レムデシビル）、中和抗体薬（ロナプリーブ）などが導入されました。薬物療法を行えるようになったことで転院数は激減し、当センターで感染隔離期間を終えて退院できる患者さんが増えました。

病床数と治療の拡大は、1つの病棟で2つのユニットが存在する状況となり、看護師の増員が必要でした。従来配置数では看護師の数が足りず、看護局全体でのリリーフ体制を組み、他病棟からの協力を得て人員を確保しています。

また、病棟はもともと身体ケア病棟の一角を、COVID-19受け入れのためにゾーニングをして使用しています。現場での一番の課題は、「今いる患者さんに感染させないこと」でした。床にテープを貼っただけでは、それを越えていってしまう方もいるため、パーテーションを二重にしたり、長机を活用するなどの工夫をしています。また、イエローゾーンを広くとることも感染拡大の防止に役立ちました。

現在も当病棟にはCOVID-19受け入れのための病床を確保しており、従来からの入院患者さんには、療養環境がゾーニングにより制限された状態が続いています。一日も早く、COVID-19の感染拡大が収束することを祈っています。



神奈川県立精神医療センター 春の健康まつりのご案内

医療・福祉が一同に会してブースを開設し、認知症の方やご家族を支援する各種の事業や制度についてご紹介します。併せて県や市が普及促進する認知症予防のための運動である『コグニサイズ』の体験や、人工知能 (artificial intelligence: AI) による歩行分析を実施します。ご希望に応じて国立長寿医療研究センターが開発したタブレットを用いた認知機能検査 (NCGG-FAT) も承ります。



テーマ：いつまでも住みたい街で暮らすために

日時：令和4年3月5日(土) 13:00~15:30 会場：神奈川県立精神医療センター 講堂

主催：神奈川県立精神医療センター / 共催：横浜市芹が谷地域ケアプラザ

参加：定員60名 参加費無料。

参加受付については2月にホームページに掲載予定です。なおコロナウイルス感染症の状況によっては中止または内容の変更をする場合があります。